

16

千代田区景観まちづくり重要物件

共立講堂

指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 一ツ橋二丁目 2 番 1 号

設計者 内藤多伸（構造）、前田健二郎（意匠）

竣工 1938（昭和 13）年

文化財等
指定状況



▲共立講堂

歴史・文化的特徴

共立講堂は、創建当時、規模・設備においても日比谷公会堂と並ぶ大講堂でした。外部使用を認めたことから、「日本の文化の殿堂」としての役割を果たすようになりました。戦後はこのような大講堂が都内にも少なく、音楽関係の公演のメッカとして知れ渡りました。ここを足場として巣立っていった演奏家たちも少なくないと言われています。その後、関係法令の改正や社会環境の変化に伴い、貸しホールとしての使用は終了しました。

戦災で焼けなかった建物ですが、1956（昭和 31）年火災で内部を焼失しており、翌年再建されています。

意匠・構造の特徴

外観は縦型の付け柱によりゴシック調にデザインされ、また屋根の形状は切妻型で、当時としては大変モダンな意匠となっています。

近年、外壁の傷みが激しくなってきたため、2007（平成 19）年に外壁タイルの貼替工事が行われました。施工にあたっては、1938（昭和 13）年に建てられた当時の様子にできるだけ近い状態となるよう計画されました。

周辺景観との関係

タイルと自然石の組み合わせによる表情と質感で、歴史あるホールにふさわしいファサードを演出するとともに、キャンパス全体に風格ある景観を形作っています。通りに面していますが、現代建築群の中でも景観的な違和感はなく、街路樹の緑と共に潤いある空間を形成しています。